
MP1 (練習用)

赤い人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MP1 (練習用)

【Nコード】

N4233Z

【作者名】

赤い人

【あらすじ】

前世で何もなさずに死んだHIKIKOMORIが異世界に転生！王子で可愛い妹がいる。これで異世界チートがあれば勝ち組だ！あつはつはつはと思ったが……。何だかんだで異世界チートは得ます、多分ハーレム系で最強になってくれるはずです。文章力がゼロでさらに見切り発車な作者です。色々練習のつもりで書いていますのでご指摘いただけるとありがたいです。

プロローグ（前書き）

この作品は作者の練習用に書いています。自他共に認める文章力ゼロでこのままでは不味いと思って投稿しました。色々ご指摘いただけるとありがたいです。非才ではありますが改訂しながら完結を目指します。

この小説はHIKIKOMORIを推奨も誹謗もしていません。

プロローグ

MP1 プロローグ

あつ死んだ

我ながら何ともあつけない人生だった。大学院までは順風満帆だったと思う。ストレートで有名国立大学に入り、剣道に打ち込んで4段を取った。友人との付き合いで無茶な事もした、彼女は作らず（ここ重要！）趣味のアニメや漫画、ライトノベルを愛した。それが崩れたのは大学院に入ってからだった。何をするのも無気力になり今では世界共通語HIKIKOMORIに・・・

今日も一人孤独にアニメを見ていたところ急に息が詰まった、このころには人とかかわりを絶って1カ月たっていた、助けてくれるひとはいない、つまりこれから死ぬということが理解できた。やっぱりあつけない人生だった。

この人生はあつけなかったけど願わくば次の人生では何か成し遂げたいな・・・。

- 享年24歳 某国立大院生 自宅で孤独死 死後2カ月と推測
死因は心筋梗塞 -

あれ!?

うんやっぱりこれは転生だよな
比較的大柄だったはずの身体を眺めたが鏡に映るのはどう見ても4、5歳の子供です。というか金髪碧眼になってるし、顔は・・・まあなかなかよな気がする。まあまわりにいる比較対象が美男美女なため相対的に平凡に思えるが。

状況を把握しよう

自分の名前は

シヨウ・オオサカ

西洋風なのに名前が突っ込みどころ満載なのはほっといてくれ。初めのシヨウが名前でオオサカは出身地を示すそうだ。

生まれた時の記憶はあいまいでよく記憶にない夢をみては体調を崩していた。

その夢は次第に鮮明になっていき今日完全に前世の記憶とそれが前世であることを理解した。

人格は今世のわりといたずら好きな性格を一気に老けさせた状態だ。ぶっちゃけいうと完全融合状態で乗っ取ったという感じはない。

皆さん（誰に言っているんだろう？）も経験はないだろうか。

某願い事かなえる玉を探す漫画を見て、おとなしい性格だったのに、

「オラ、わくわくするぜ！」

とかいって勇氣あふれる性格になった気がしたり、

とある不幸な？フラグ量産機なラノベを見て、

「殲滅原子！！！！」
デス・アトム

とか将来発動するであろう能力を妄想し、それを続けて完全に厨二病に発症してしまった僕がいる。

・・・ん？ただの暴露話になっていないか。

まとめると前の自分とえらい性格が変わって別人格みたいになっても根本的に自分は自分ですよということだ。

まあ性格がいきなり変わったから可哀想なやつみたいな目で見られるかもしれないが、甘んじて受け・・・いやまて！二つ下の異母妹に「お兄ちゃんへん！」とか言われたらこの人生またあきらめるかもしれん！

バレないよう子どもの振りをしよう！・・・ってさっきまでの性格ってどなんだっけ
落ち着いて思・・・いd？

「・・・お兄ちゃん（シヨウ様）！五歳の誕生日おめでとう（いざい
ます）！」「」

えっと

順番に可愛い異母妹のカレン、僕専属メイドのトモエ、カレン専属のサラだ。

さっき説明してなかったが実はこれでも王子だ。父さんは二ホン国の王で450年も統治を続けている生きた伝説で、母さんは僕を生んですぐになくなったそうだがメイド道を極めた特別なメイドだったらしい。ついでに兄弟は18人いて、自分が17番目、カレンが18番目の末っ子だ。他の兄弟は50歳以上離れているのであまり交流はないが逆にカレンとは年が近いためよくいっしょに遊んでいる。カレンのお母さんは侯爵家の娘らしくプライドが高いのか僕といっしょにいるといい顔をしないけど（今の頭でよく考えると）。

まあまで言いたいことはわかっている。さっきの名前からやっぱりこれはテンプレとか推測できた人、拍手です。転生は転生でも異世

界転生です。なんか日本語で通じるし、文字とかも日本語（習ったことなくて読んでたけど誰も突っ込まなかったのだろうか）、国名もあからさまだ、だがしかし異世界だ。

周りにいる人みんな若いし、父さんも25歳くらいにしか見えない（実年齢465歳）。周りには猫耳、や犬耳の人もあるし、魔法があるらしい！うんファンタジー！あーやっぱり魔法があるなら使えるようになりたいな！よしテンプレ通り早期修行&異世界チートを確認しないと、まずは・・・

「お兄ちゃん大丈夫？なんかブツブツいつているし、いつもと違う感じだしへんだよ！」

あああああ〜やってしまった。いつもどおりに振る舞おうと誓ってたはずなのに、もう生きていけない・・・ドナドナドーナもどっかつれてっー

「カレン様。シヨウ様はおそらく最近は見えていらっしやらなかった悪夢を見てしまわれたのでしょうか。すぐにお薬と治癒魔道士を連れてまいりますので大丈夫ですよ。」

「そうです。ああカレン様が今夜いっしょに寝てあげてはどうでしょう。シヨウ様もきつとぐっすりお休みになられますよ！」

「えっほんと！えい！」

トモエがフォローしサラがとんでもない事をおっしやって、いきなりカレンが抱きついてきた。

「！？」

ふんわりと柔らかい感触と甘い香りがしてきて・・・
やばいまた変な奴と言われちゃうからしっかりしないと

「あ、ありがとうカレン、もう大丈夫。夢見が悪かっただけでちょっと落ち込んでただけだから、それとサラがいったのは今夜でいまじゃないよ」

「わかった」

と行ってカレンはあっさり離れた。

し、しまった〜余計なこと言っちゃった。もう少し天国を味わいたかったのに。(涙)

いちようお薬飲んで、治癒魔道士に治療してもらいました。なんともないようです。

プロローグ（後書き）

初めて小説を書きました。いつも国語は赤点近くだったな。上達できるように頑張ります。

第1章 - M P 1の王子 其の1 - (前書き)

続けて投稿です。

第1章 - MP1の王子 其の1 -

第一章 - M1の王子 其の1 -

「お兄ちゃん。プレゼント！」

そういつて僕に渡してくれたのは泥団子だった。誕生日に泥団子・
・もちろん無粋な事は言わない、異母妹の泥団子に込められた自分
へのお思いが素晴らしい。

「ありがとうカレン。この泥団子すっごくおいしそうだね！」

よし、対応完ぺき！はっは前世では歳の離れた弟がいたから子供の
相手は慣れてるぜ！

「え！？お兄ちゃんそれ食べるの？やっぱりあたまへん！」

またやっちゃまった！なんでだー

- 説得中 -

何とか薬&治癒魔道士のコンボをかわし、冗談という事で納得し
てもらった。そしてひと段落ついたところでトモエが話し出した。

「シヨウ様5歳の誕生日おめでとございます。5歳の誕生日には
特別な儀式があります。陛下が待っておられますのでお食事の前に
玉座の間に行ってらっしゃいませ。」

！？ 今世の記憶を探ってもまだ父上は遠目にしか見たことがなか
った、よっぽど重要な儀式らしい、ちょっとオラ、わくわくしてき

たぜー

- 玉座の間にて -

一人で行けということにカレンには置いていくことに文句を言われたが了解してもらった。ブンブンしているところもまた可愛い・・・意を決して玉座の間に入った。

「大きくなつたなシヨウよ！」

そこには威圧感たつぷり、カリスマオーラ万歳の御人がいた。ってか父らしい。

個人的にこういうなんかすっこそうな人って身内にはいて欲しくないよね。そりや自分もすこかったらいいけど、我が道を行くとかで迷惑振り撒いたり、比較されて蔑まれたり。どーせ自分はHIKIKOMORIですよ

「ん？どうした、我が子ならそんな小さな声でなくはつきりと答えよ！」

またまたやってしまったようだ。やっぱりHIKIKOMORIのネガティブさに性格が引きずられているみたい、ポジティブにしないと！うん、もう自分は別人！人生バラ色、王子だし可愛妹居るし勝ち組だ！

「はっ！シヨウ・オオサカ、召喚に応じ参上致しました！汝が我が父か！」

畏まった言い方あんまり知らないんだ、たしかこんな感じの挨拶で

よかったよね。

「いかにも！我がそなたの父である！」

乗ってくれた。意外とお茶目な性格かもしれない。

落ち着いてまわりを見ると宰相なおっさん（名前忘れたわ）と、偉そうな神官ぽい人がいた。

「今日はそなたにある事実と儀式をもらう。説明は我よりギラ、そなたの方がよいだろう。任せた！」

するとえらそうな神官ぽい人ギラだけが話し始めた。

第1章 - M P 1の王子 其の1 - (後書き)

あつふたつ連続投稿します。

第1章 - M P 1の王子 其の2 - (前書き)

3つ目です。

第1章 - M P 1の王子 其の2 -

- M P 1の王子其の2 -

キラの話はあーだこうだでわかりにくかった。まとめるとこうだ。

- ・この世界には神がいる。
- ・この世界のすべてのものはM Pでできている。
- ・神はM Pを使って何でもできる。(天地創造からハゲ治療まで)
- ・人族もその恩恵を受け、神にM Pを奉納することで力を借りてます。

・今日は神に自分は神の使徒であることを宣言して実際に力を借りますしよう。

・それと身分証明書を神に発行してもらいましょう。(これ儀式) うんR P Gをこよなく愛し、現実と2次元の区別がつかなくなった自分だこれくらい楽勝だろう。

なになに神の存在を意識し語りかけなさい？

『えーもしもし神様！おれおれ！ちよつとなんか力欲しいんだけどぴかーん！成功か？こんな適当でいいの！』

神1？ 『シヨウ・オオサカよ汝に加護を授けよう』

神2？ 『シヨウ・オオサカは12歳まで限定職業「初心者」を得ました。』

初回限定につきM P奉納はありません

ポテンシャルスキル「加護(熟練度1) 消費日M P - 1を

習得

アクティブスキル「加護（MP操作 0 / 0）消費MPO」

習得

ポテンシャルスキル「メニュー欄（熟練度1）消費日MP

0習得

アクティブスキル「メニュー欄（ステータス閲覧 0 / 0）

消費MPO習得

ポテンシャルスキル「初心者行動の心得（熟練度1）消費

日MPO習得

なんかゲットした。

「習得されたようですね。神は常に見ておられます。神の存在を感じMPをささげましょう。陛下お願いします。」

このひと完全宗教家だよ。おつと父さんが寄ってきた

「これはお前の誕生日プレゼントだ。名を「1億までMP保存可、すでに20万入っているめっちゃレアな指輪」という。今からシヨウに所有権を渡す。同意してこの指輪にキスをしなさい」

な、名前が大変な事に、

言われたように父さんがキスした指輪にキスした・・・うげ

神2？『オウマ・オオサカ・ニホンからシヨウ・オオサカに「1億までMP保存可、すでに20万入っているめっちゃレアな指輪」が譲渡されます。よろしいですか？』

あーあれだYESとか念じればいいんだよな

神2? 『オウマ・オオサカ・ニホンからシヨウ・オオサカに「1億までMP保存可、すでに20万入っているめっちゃレアな指輪」が譲渡されました』

ゲットだぜ」

「無事成功されたようですね。それでは次に身分証明書の発行を行います。シヨウ様いきますよ?」

神1? 『ギラ・ペキン神官より願いを聞いた MP10をささげよ
さすれば 身分証明書を発行しよう』

神2? 『クエスト発生

タイトル：身分証明書を発行しよう

達成条件：MP10を奉納

期限：なし

報酬：身分証明書の発行

クリア条件MP10をささげますか?』

もちYES

神2? 『体内MP1、外所有MP200000あります。どのよう
に奉納しますか?』

体内MP?よくわからん。外所有とかはさっきの指輪からかな?M
P0とかこわいし、指輪からにしよう

神2? 『外所有MPから10奉納しました

クエスト達成です

身分証明書が発行されました』

ん？手になんかカードみたいのが出てる、内容は

名前：シヨウ・オオサカ

種族：ヒューマン

年齢：5歳

職業：初心者

体内最大MP：1

どーなんでしょう？ え！？ なんかもっっちゃ驚いているけど・・・
やっぱり異世界チートか、悪いね〜魔王倒せとか言われたらd

「の、呪われた子だ！即刻殺しましょう！」

へ？

第1章 - M P 1の王子 其の2 - (後書き)

次で今日は最後

第1章 - M P 1の王子 其の3 - (前書き)

今日最後です

第1章 - M P 1の王子 其の3 -

M P 1 - M P 1の王子 其の3 -

「殺せ！！ 殺せ！！ 殺せ！！」

神官と宰相の大合唱。どうしてこうなった。

整理しよう

- ・ 5歳の誕生日、転生者と発覚！？妹可愛い
- ・ 神様とのファーストコンタクト！成功のはず
- ・ 父さんからのプレゼント！名前が酷い
- ・ クエスト達成！身分証明書ゲット
- ・ 身分証明書を見せた！今の状況

異世界チートという以前にもうエンドしそうな雰囲気です。とりあえず重要なのは妹可愛いというのは大前提として、身分証明書の内容。おかしいところはおそらく体内最大M P 1ということだろう。この世界のはすべてM P からできているということなのでM P 1は低すぎたのだろう、魔法のないところから来た弊害・・・逆チートものか。整理して原因は分かったけど、どうしたらいいのやら。

「お生まれ！お主らは誰の前で誰の息子を殺すというのか！？体内最大M P 1というのは前代未聞だ。たしかに王宮にはおいてはおけんしが、12歳までは育て見守るのが親の務め、12歳になったら×××××すればよかるう。」

さすが父さん今日初めて話したけど何とかしてくれそう。頼りになるね！ 途中なんか聞こえなかったけど助かるんならいいよね。

-その後-

「これからこの離れがシヨウ様の居住区となります。シヨウ様は12歳までここを出ることはできません。なおここには朝昼晩食事を持っていくきます。掃除は1週間に一回、洗濯物やその他必需品の取り換えもします。その際所定の位置にいて誰とも合わないようにして下さい。というかもう12歳まで誰ともしゃべれません。12歳になったら門をあけますので、そのまま消えて2度と近寄らないでください。」

トモエが汚い物でも見たような眼で嫌そうにおっしやった。王子になってもHIKIKOMORIなのか・・・

第1章 - M P 1の王子 其の3 - (後書き)

感想お待ちしております。次話は感想頂いて改訂後投稿します。今すでにストックゼロ、プロットなし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4233z/>

MP1 (練習用)

2011年12月14日23時52分発行